

前回小委員会での委員・市町村からの意見
個別説明での委員からの意見

参考資料10

時	内容
小委員会	これまで県(専門委員会)で議論して決めてきたことのうちの一部は、国が方針を後から出してきたことにより採用できなくなる。国の方針に従わざるをえないのは分かるが、それならば追認するための専門委員会は必要ないのではないか。
小委員会	地盤が軟弱な箇所では大きな防潮堤を造るよりも、高台移転を推奨したい。
小委員会	過去の津波でも既に検証されているが、防潮堤があれば反射波で他箇所の津波高が高くなる。
小委員会	国が決めた方針と、県(専門委員会)で議論して決めたことを明確に分けて説明すべき。国が決めた方針には、国が説明責任を持つべき。
小委員会	復興の方針を早期に示すことで、人口流出に歯止めをかける必要がある。
個別説明	国が決めた方針と県の自主的な判断は明確にしておくべき
個別説明	目標値が決まることは良いこと。今後はスピードと予算配分の確実な措置が鍵となる。
個別説明	ガレキを堤防よりも高くするのはやめた方が良い。明らかに強度が弱いので、被災ポテンシャルを高めることになるのではないか。
個別説明	津波で被災する前に地震で被災してしまわないように、一面盛土は可能な限り避けた方が良い。
個別説明	国の方針で決めたのだから、国が説明すべきではないか。
個別説明	国の委員会において、地域計画・避難計画の際に実施している最大クラスの津波での浸水シミュレーションで防潮堤などの効果(どこまで破壊させないか)については、検討中である。
個別説明	高さを説明する順番として「現状の高さ」→「目標高さ」→「最大クラス津波高さ」の順番だと違和感がないのではないか。
個別説明	吉里吉里地区については、防潮堤工事を始める前に、国道の使い方の方針を決めないと、商業の復興が進まないのではないか。
小委員会	災害は時間が経てば必ず風化する。昭和三陸大津波の15年後には浸水地域に家が乱立した。
小委員会	早く防潮堤工事を始めないと、人口流出に歯止めがかからない。
小委員会	吉里吉里や浪板は観光地なので、国道45号を嵩上げして防潮堤替わりにして欲しい。
小委員会	吉里吉里の東側の集落や、国道よりも海側の集落は高台移転しなければならないと思っている。